



公立大学法人

会津大学短期大学部

夢咲く短大

実学・実践教育を軸に修学環境を育む

大学基準協会事例報告会2025.06.30

■ 会津大学短期大学部について

- ・ アクセス
- ・ 会津大学及び会津大学短期大学部
- ・ 沿革と各学科について

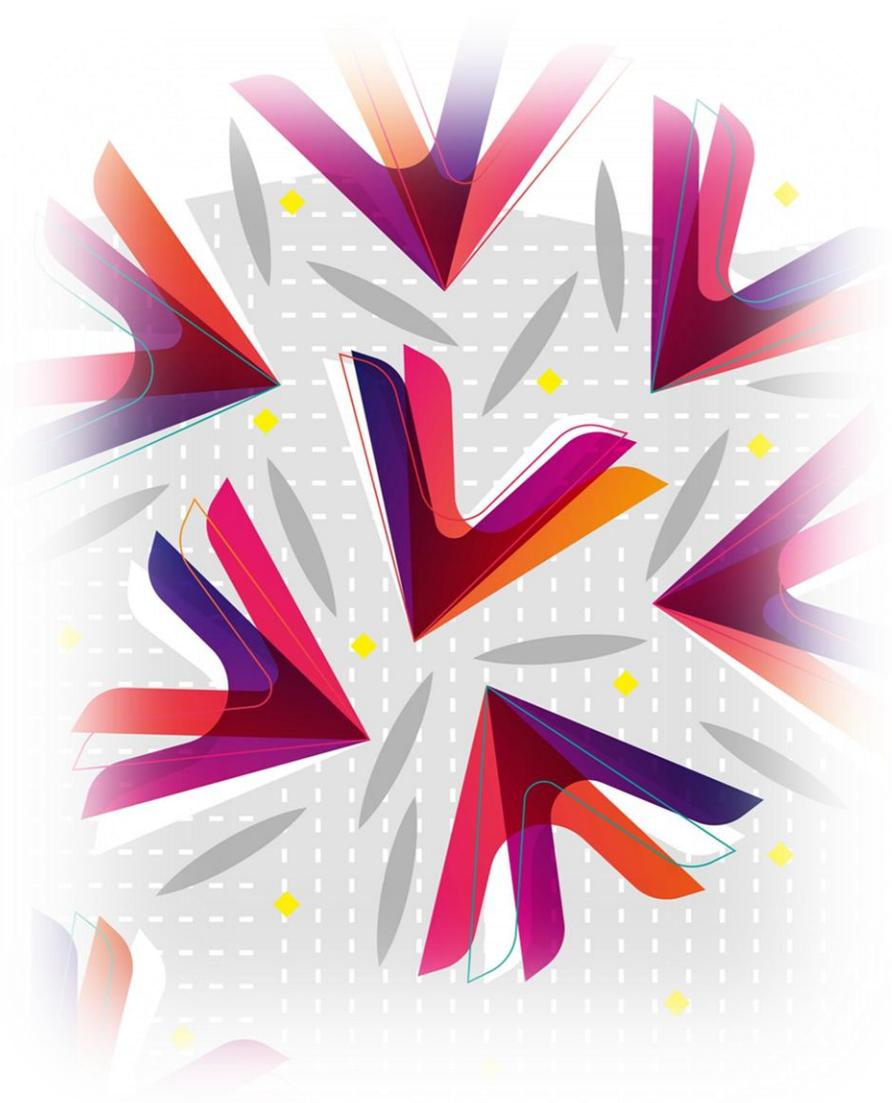
■ 教育の内部質保証の取組みについて

- ・ 会津大学短期大学部の内部質保証の体制
- ・ 方針・規定の整備
- ・ F D研修、シラバス等の改訂・取組みについて

■ 認証評価受審時の課題について

- ① カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）の見直し
- ② CAP制の導入検討について
- ③ 学修成果の可視化の検討について

■ 【紹介】 実学・実践教育、地域連携等について



○会津大学短期大学部について



・アクセス



公立大学法人会津大学

2006年に法人化。6年毎に福島県から中期目標が示され、目標達成のために中期計画を策定し、教育研究等に取り組み、福島県から法人評価を受ける。その結果を基に計画を改善して質保証を確保するとともに、社会状況の変化に対応。

会津大学短期大学部(1951年4月開学)

- ・産業情報学科
 - 経営情報コース
 - デザイン情報コース
- ・食物栄養学科
- ・幼児教育・福祉学科

学生定員 300名

会津大学 (1993年4月開学)

- ・コンピュータ理工学部
 - コンピュータ理工学科
- ・コンピュータ理工学研究科
(博士前期課程／博士後期課程)

学生定員 1,090名



○会津大学短期大学部について



1951年 会津短期大学開学（商科開設）

1952年 教職課程認定
（高等学校:商業・中学校:職業）

1993年 会津大学短期大学部に名称変更

産業情報学科（経営情報コース・デザイン情報コース）開設
食物栄養学科・社会福祉学科に改称

出生数の推移
（万人）

1957年 福島県立会津短期大学に改称

1958年 家政科開設・教職課程
（中学校:家庭・保健）

1994年 一般教養科・
商科・デザイン科廃止

1980年 食物栄養科・
デザイン科・社会福祉科開設

2006年 公立大学法人会津大学に移行

2007年 地域活性化センター・
キャリア支援センター設置

1965年 家政科に
家政専攻・食物専攻開設

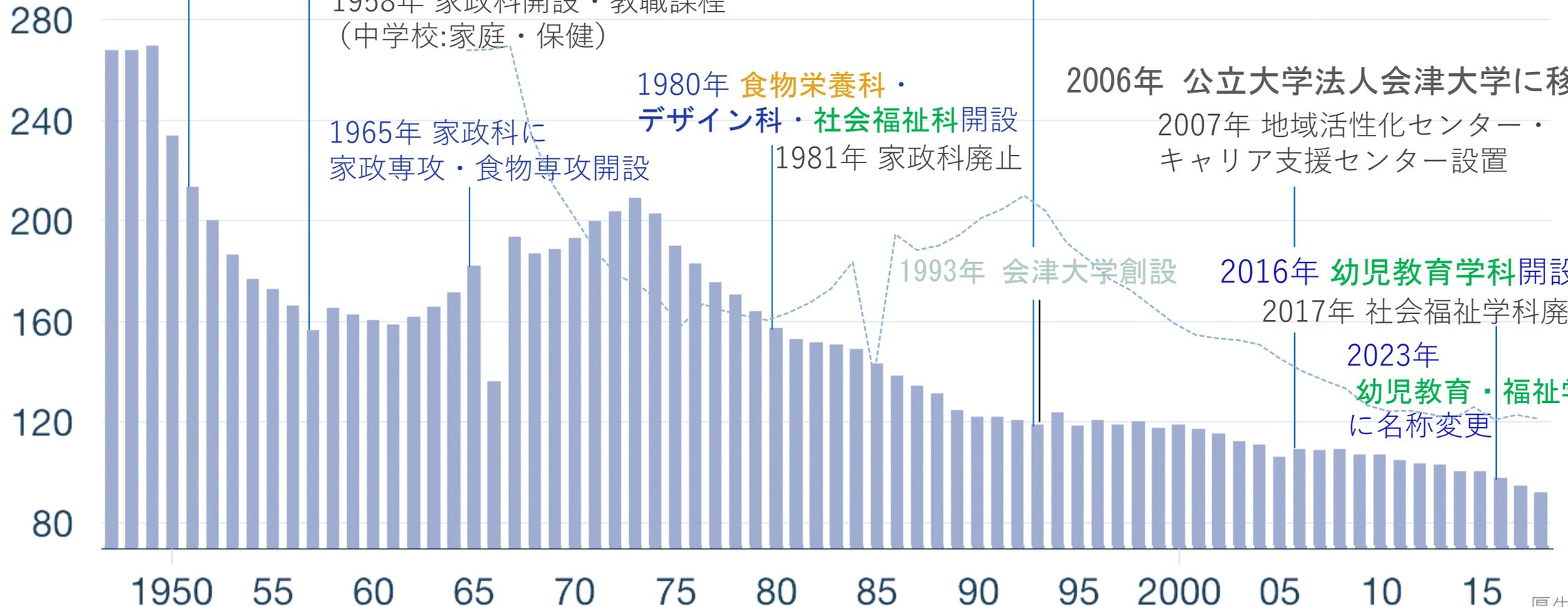
1981年 家政科廃止

1993年 会津大学創設

2016年 幼児教育学科開設

2017年 社会福祉学科廃止

2023年
幼児教育・福祉学科
に名称変更



就職や編入学に強い3学科2コース

会津大学短期大学部の教育研究上の目的

● 本学には、**産業情報学科（経営情報コース・デザイン情報コース）**、**食物栄養学科**、**幼児教育・福祉学科**を設置し、産業、経営、デザイン、情報、環境、健康、栄養、食品、教育、保育及び福祉などの専門性を有した上で、幅広い教養と高い倫理観に根差した判断力や総合力を有する人材の育成を目指す。

● また、豊かな人格と自発的な学習意欲を持続させながら行動力と実践力のある人材の育成を目指すとともに、時代の変化や今日的課題に対応できる問題解決能力や創造的展開能力を保有する応用能力のある人材の育成を目指す。

● 加えて、**地域社会が抱える問題を解決**するため、本学の知識や技術の成果を地域社会に還元することを目的とする。

経営



企業・自治体・地域社会
で活躍したい

デザイン



デザイナー・建築士
として活躍したい

食物栄養



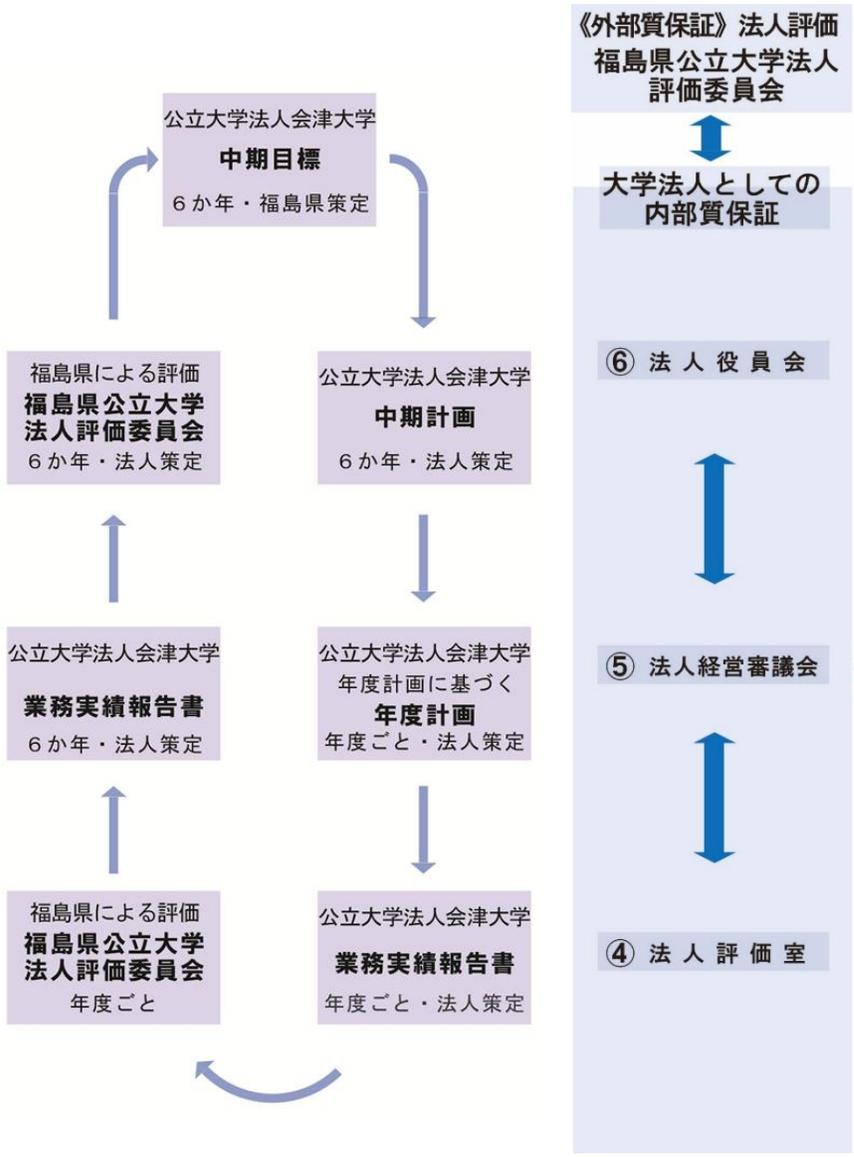
栄養士
として活躍したい

幼児教育
・福祉



幼稚園教諭・保育士・社会福祉士
として活躍したい

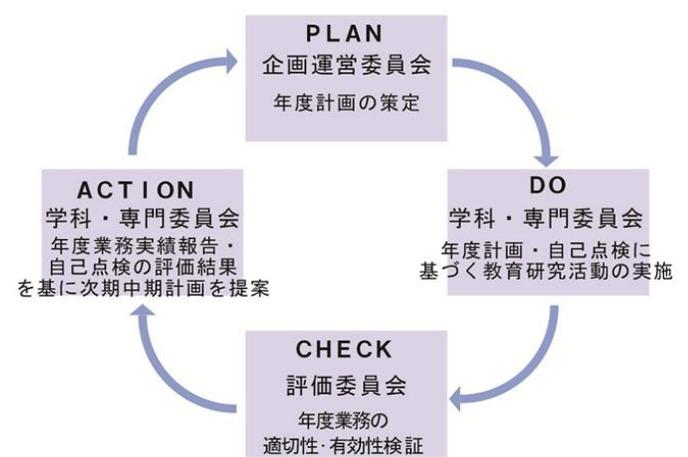
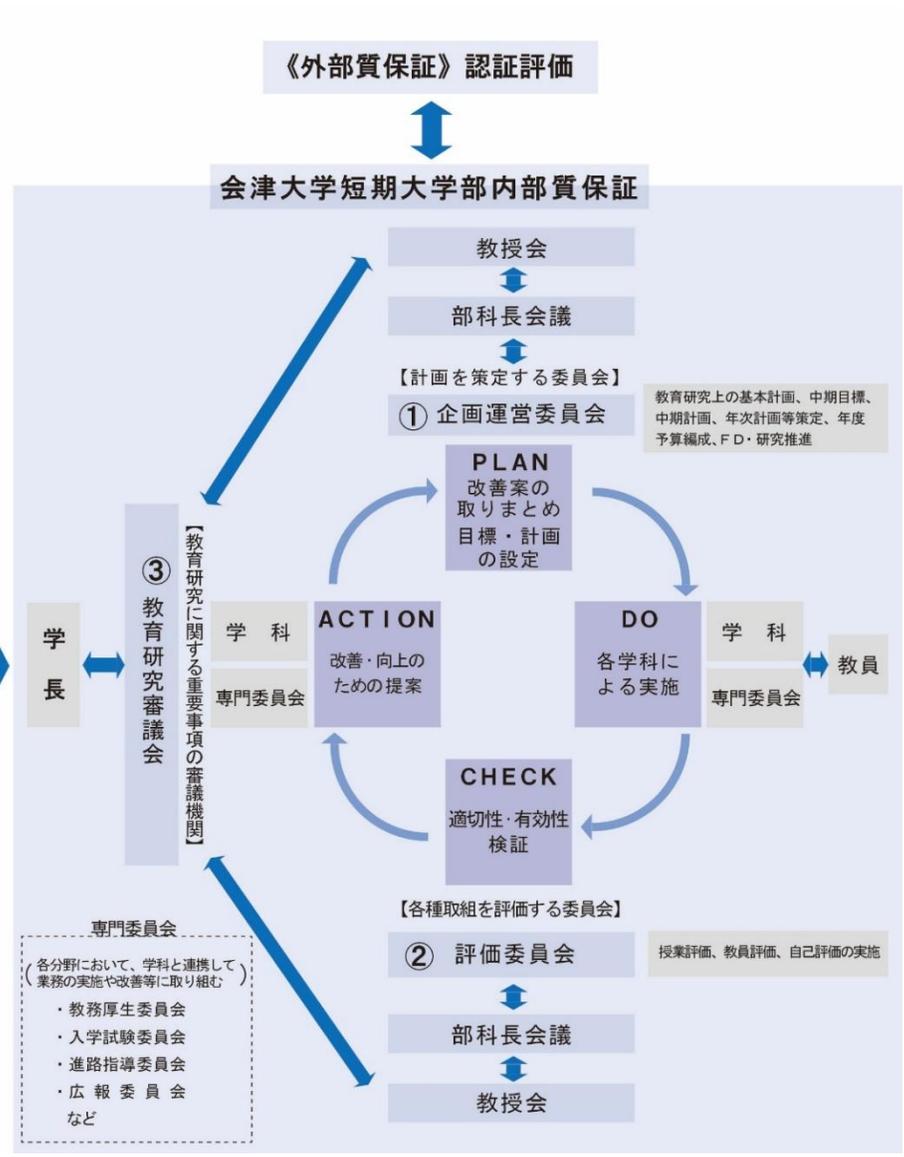
○教育の内部質保証の取組みについて



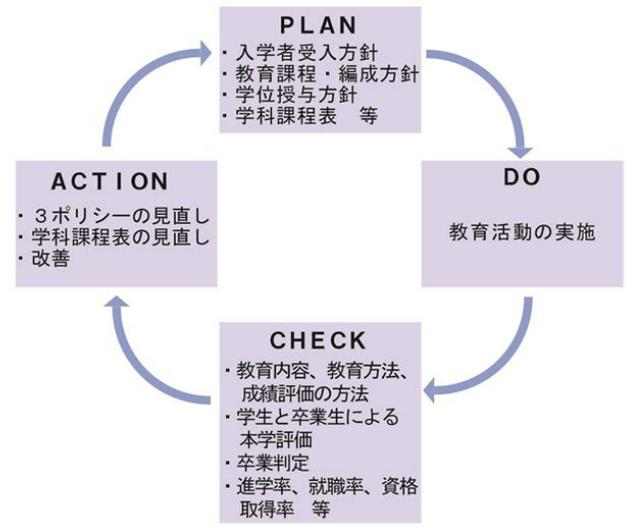
中期目標達成のための流れ

中期目標・中期計画に基づく評価

会津大学短期大学部の内部質保証の体制



全学的な教育活動のPDCAサイクル



学科レベルの教育活動のPDCAサイクル

学校教育法に基づく自己点検・評価

○教育の内部質保証の取組みについて（方針と規定の整備）

会津大学短期大学部内部質保証の方針（2024.3制定）

【基本的考え方】

教育研究活動等の目的を実現するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検、評価を行うとともに、その適切な水準の維持、向上を図るものとする。また、法人設置団体である福島県が定める中期目標に対する中期計画を基本方針として内部質保証の取組を推進する。

【内部質保証のための手続き】

企画運営委員会及び評価委員会を中心に各学科、各委員会の連携のもとPDCAサイクルを確立して内部質保証の取組を推進。

○企画運営委員会：年度計画や予算案を策定

○評価委員会：年度計画の項目ごとに自己点検・評価を行い、現状、課題、検証結果等を取りまとめ



内部質保証の目的や手法を検討

会津大学短期大学部内部質保証推進規程（2025.6制定）

取組を推進するため、学校教育法第109条の規程に基づき、教育研究活動その他短期大学部の諸活動を定期的に自己点検・評価を行うとともに、その結果を検証して改善に結びつけることにより、短期大学部の教育研究活動等の質を継続的に向上させる仕組みを構築することによって、短期大学部の教育研究等の適切な水準の維持、向上に取り組むこととした。

○企画運営委員会：学長の改善指示を受け部科長等に対し改善状況または計画策定状況の報告を要請
改善状況や計画を取りまとめ学長に報告するとともに、次期年度計画等を策定

○評価委員会：学長の指示により学内組織に対し自己点検・評価の実施を要請
自己評価・結果を取りまとめ学長に報告

○教育の内部質保証の取組みについて（F D研修、シラバス等の改訂・取組みについて）

■ F D研修 教育内容・方法などの改善、シラバスの充実化のための研修会を開催

2021年度：「シラバスの書き方-認証評価へ向けて何が必要か?-」

2022年度：「教育の質保証」「PDCAサイクルと質保証のための学内体制の構築」

2023年度：「成績評価の組織的点検」教育の質保証の観点から
「シラバス改善実践セミナー」教育の質保証の観点から

2024年度：「人を対象とした学術研究と被験者保護」

■ シラバス作成要領の改訂 教育のPDCAサイクルの一環として見直しを実施

記載方法

- ・授業概要は、学生が授業を概観できるように、どのようなトピックが扱われるのか、どのような分野やスキルが習得できるのかを理解できるように記載。
- ・授業目的は、授業の意義や必要性が伝わる表現、主語は教員ではなく学生となるように表現を心がける。

DPとの関係

- ・習得したスキルや知識を学生がどのように活用できるのかといった観点から記載。
- ・各学科のディプロマ・ポリシーで示された習得すべき知識・能力のうち、授業の到達目標との関連を踏まえて、該当する内容を記載。

■ シラバス相互チェック体制の構築 内容を検証し、改善に向け、全学的に取り組む体制

提出されたシラバスは、事務担当者のスクリーニングチェックと常勤教員によるチェックを実施し、その結果をシラバス執筆者にフィードバックして必要に応じて修正する体制とした。

■ F D 研修 教育内容・方法などの改善、シラバスの充実化のための研修会を開催



2021年度FD研修会
「シラバスの書き方-認証評価に向けて何が必要か? -」

2022年度FD研修会
「教育の質保証」
「PDCAサイクルと質保証のための学内体制の構築」

■ シラバス作成要領の改訂 教育のPDCAサイクルの一環として見直しを実施

| | | | |
|--------|--|---------------------------------------|-----|
| 科目名 | 室内計画 | | |
| 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 |
| 開講時期 | 2025年度前期 | 単位数 | 2単位 |
| 担当教員 | 柴崎 恭秀 | | |
| キーワード | デザインの潮流、人体寸法、室内と熱、空間と光・色彩、安全・防災、環境共生 | | |
| 授業の概要 | 人間の快適で安全な生活を保証する容器が「室内」である。その室内を計画するに当たっては、まず、生活者である人間を理解し、次にその容器としての空間（建築によってつくられた内部空間）が備えていなければならない機能、そしてその空間を構成している要素や環境への理解を深める必要がある。成人健常者のみでなく、子供や高齢者、身障者等、様々な状態があることも理解し、それに対応する空間や部分(ディテール)の在り方についても理解を広げる必要がある。「空間」については、住空間（住居建築）を主な対象とし、その構成要素、環境要素について理解を深め、更に身近な生活空間が地球環境まで連続していることを学習していく。 | | |
| 授業の目的 | 生活の豊かさの根源としての住居建築を主な対象とし、現在のわれわれの住空間がどのように形成されてきたかをデザインの流れから捉え、住空間と人体寸法の関係、熱環境や光、色彩との関係について理解することを目的とする。また、子供から高齢者、障害者等が、安全に生活するための室内計画の基本的な知識について学び、火災や事故などに対してどのような対策を行っていくかを理解できるようにする。最後に本来、日本人が培ってきた風土に適用した住環境のつくり方についても理解を深め、今後の地球環境の変化に対して持続可能な住環境を如何に創造していくかについて考察する。 | | |
| DPとの関係 | 産1、幅広い教養と経営情報コース、デザイン情報コースそれぞれの専門的知識を修得している。／ 産4、情報を収集・分析・伝達・活用するための技能を備えている。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 大きなデザインの流れのなかで、現在の室内計画の位置づけを理解できる。 ② 人体寸法が室内計画にどのように影響しているか、また、モジュール、モデュロールなどについて理解できる。 ③ 熱の伝わり方や結露の発生について、また光や色彩と室内空間の関係について理解できる。 ④ 住環境を中心に安全性の確保や災害等への対策手法等について理解できる。 ⑤ 環境共生のための住空間の在り方を理解し、今後の持続可能な住環境について考察できる。 | | |
| 授業計画 | タイトル | 学習内容 | |
| 1 | ガイダンス・室内計画の意味 | 室内計画の位置づけや機能、要素等について、他の分野との連関性について | |
| 2 | デザインの系譜と地域 | アーツアンドクラフツ運動以降の芸術等の動向、各構成主義について | |
| 3 | モダニズムが室内計画に与えた影響 | モダニズムやインターナショナルスタイルが現在の住空間に及ぼした影響について | |
| 4 | 外部空間と内部空間 | 「街並みの美学」と「中間領域」から「内」と「外」の関係について | |

授業概要: 学生が授業を概観できるように、どのようなトピックが扱われるのか、どのような分野やスキルが習得できるのかを理解できるように記載

授業目的: 授業の意義や必要性が伝わる表現、主語は教員ではなく学生となるように表現

DPとの関係: 習得したスキルや知識を学生がどのように活用できるのかといった観点から記載
各学科のディプロマ・ポリシーで示された習得すべき知識・能力のうち、授業の**到達目標**との関連を踏まえて、該当する内容を記載。

■ シラバス相互チェック体制の構築 内容を検証し、改善に向け、 全学的に取り組む体制

事務担当者のスクリーニングチェックと常勤教員によるチェックを実施し、その結果をシラバス執筆者にフィードバックして必要に応じて修正する体制

| 科目名 | 教員氏名 | 開講時期 | 学科引渡し | 確認担当教員氏名 | 確認 | 事務返却日 | 修正依頼日 | 修正 |
|------------|--------|------|-------|----------|------|-------|-------|----|
| 人間と思想 | 高橋 嘉代 | 後期 | ✓ | A教員 | ✓ | 3月4日 | | |
| 心理学 | 梅宮 れいか | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 日本語表現法 | 宮岡 良成 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 音楽 | 渡部 昌之 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 人間と美術 | 渡邊 晃一 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 社会学と社会システム | 高橋 嘉代 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 契約と社会のルール | 中里 真 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 日本国憲法 | 山田 朋生 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| くらしと経済 | 石光 真 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 生命のしくみ | 漆谷 博志 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 生活の科学 | 左 一八 | 後期 | ✓ | B教員 | ✓ | 3月4日 | | |
| 力学 | 彌川 優 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 経営情報概論 | 木谷 耕平 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| デザイン情報概論 | 沈 得正 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 木谷 耕平 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 成澤 徳子 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 平澤 賢一 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 中澤 真 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 八木橋 彰 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 高橋 延昌 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 横尾 誠 | 後期 | ✓ | ✓ | 3月7日 | | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 吾子 可苗 | 後期 | ✓ | C教員 | ✓ | | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 柴崎 恭秀 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 北本 雅久 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅠ | 沈 得正 | 後期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 木谷 耕平 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 成澤 徳子 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 平澤 賢一 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 中澤 真 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 八木橋 彰 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月4日 | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 高橋 延昌 | 前期 | ✓ | | ✓ | 3月7日 | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 横尾 誠 | 前期 | ✓ | ✓ | 3月7日 | | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 柴崎 恭秀 | 前期 | ✓ | ✓ | 3月7日 | | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 北本 雅久 | 前期 | ✓ | ✓ | 3月7日 | | | |
| 卒業研究ゼミⅡ | 沈 得正 | 前期 | ✓ | ✓ | 3月7日 | | | |
| 情報活用概論 | 中澤 真 | 前期 | ✓ | ✓ | 3月7日 | | | |

○認証評価受審時の課題について

1 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）の見直し

○産業情報学科を例に

産業情報学科の教育課程は、教育研究上の目的を達成し、学位授与方針に掲げた能力の育成のため、教養基礎科目、専門教育科目、自由科目をもって編成する。専門教育科目においては、産業や地域振興に関わる基礎から応用、実践にわたる学術分野を、経営情報コースとデザイン情報コースのそれぞれの視点から順次性を考慮して体系的に科目を配置する。

産業情報学科は経営情報コースとデザイン情報コースの二つのコースで構成されることから、専門教育科目を**必修科目**、共通選択科目、**経営情報コース専門科目**、**デザイン情報コース専門科目**の4つに分類して科目を配置する。

◆必修科目

学科全体の学びの質を保証することを目的として、学科の専門領域の学びに欠くことのできない基礎的な科目と、卒業研究・卒業制作のための実践科目を配置し、専門領域の基礎力と応用力を身につけた学生を育成する。

◆共通選択科目

両コースに共通する知識とスキルを学ぶための科目を配置し、両分野の統合的な視点を育み、多様な課題に対応できる学生を育成する。

◆経営情報コース専門科目

地域社会の活性化やまちづくりなど社会に貢献できる人材育成のために、経営情報に関する各分野の基礎から応用までを理論的・実践的に学ぶ科目を配置する。これにより、産業界や自治体のニーズに対応できる実践的な知識とスキルを持つ学生を育成する。

◆デザイン情報コース専門科目

デザイン活動に必要な創造性豊かな感性と展開力を養うために、デザイン情報に関する基礎から応用までを理論的・実践的に学ぶ科目を配置する。これにより、デザインの創造力を高めつつ、情報技術を駆使して地域や産業界に貢献できる能力を育成する。

▶専門教育科目の水準について

4つに分類された専門教育科目は、順次性および分野の体系を考慮して4段階の水準に分けて配置する。

▷水準1

学生の自律的に学習する意欲を高めるための科目、ならびに産業情報に関する専門知識を学ぶための基礎となる科目で構成され、主に初年度に配置する。これにより、**専門分野への関心を高め、学習への動機づけを図る。**

▷水準2

専門分野の中核的な知識と技術を修得するための科目で構成され、基礎的な概念や理論を踏まえ、より専門的な内容へと展開させるための科目を主に1年後期から2年前期に配置する。

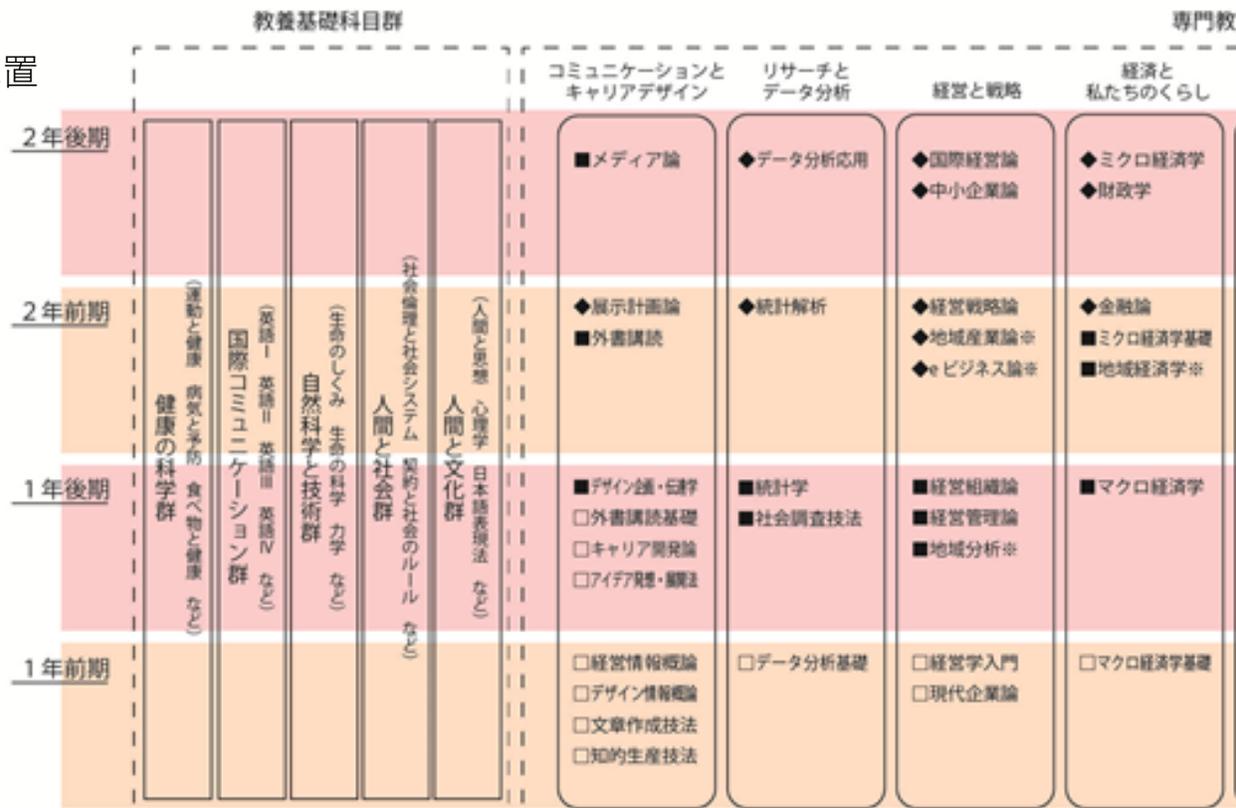
▷水準3

水準2までの科目で学んだ知識に基づき、より高度な応用力を養う科目で構成される。各分野の専門性を深めるとともに、**実社会での問題解決に活用できるスキルを養成する**ことを目的とし、主に2年次に配置する。

▷水準4

卒業研究や卒業制作など、これまでの学修を総合的に実践するための科目で構成される。産業界や地域社会との連携を重視し、**実社会における創造的な提案を行う能力を養成する**ことを目的とし、2年次に配置する。

時系列配置



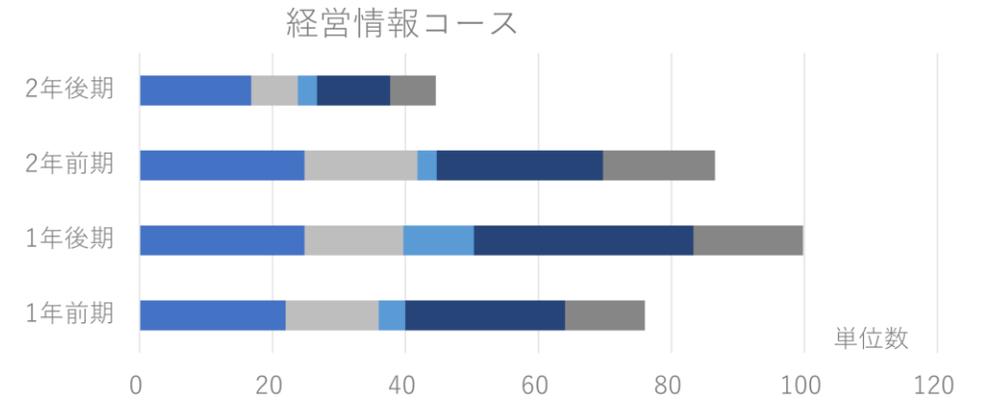
科目群・カテゴリー別科目

<専門教育科目の水準について>

4つに分類された専門教育科目は、順次性および分野の体系を考慮して4段階の水準に分けて配置する。

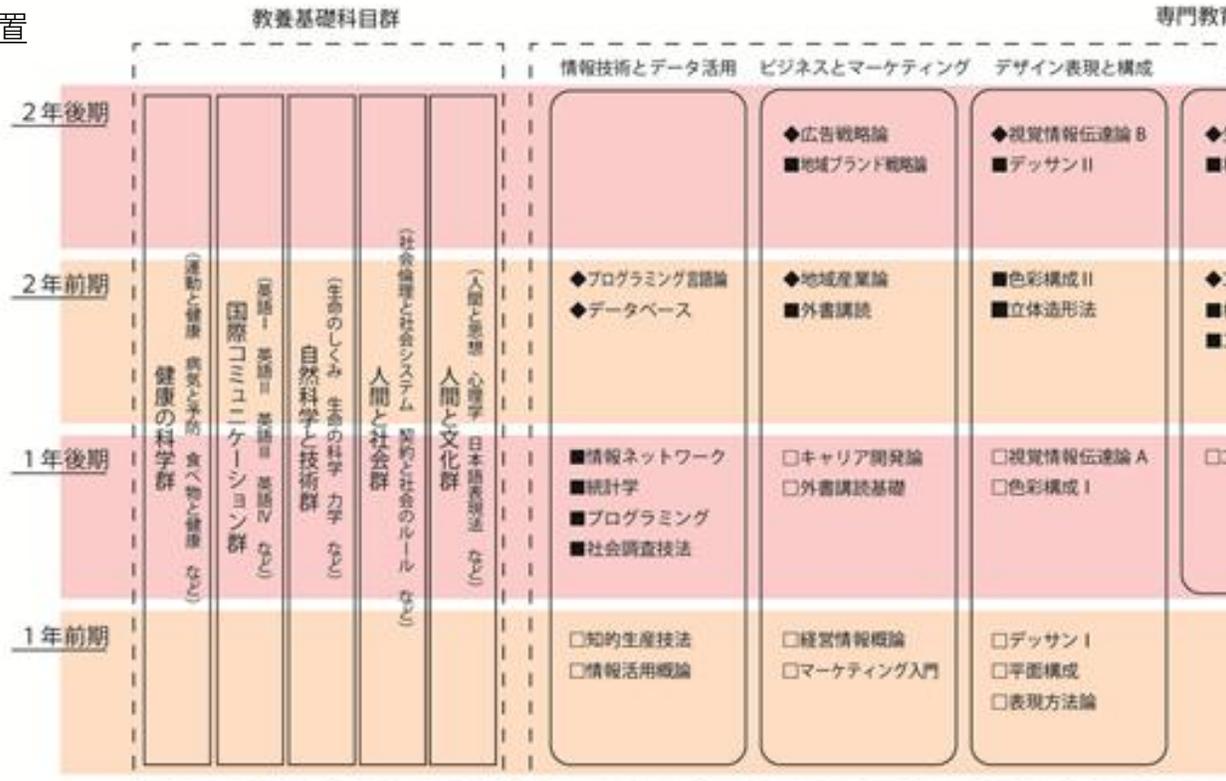
| 水準 | 記号 | 概要 |
|----|----|---|
| 1 | □ | 学生の自律的に学習する意欲を高めるための科目、ならびに産業情報に関する専門知識を学ぶための基礎となる科目で構成され、主に初年度に配置する。これにより、専門分野への関心を高め、学習への動機づけを図る。 |
| 2 | ■ | 専門分野の中核的な知識と技術を修得するための科目で構成される。基礎的な概念や理論を踏まえ、より専門的な内容へと展開させるための科目を主に1年後期から2年前期に配置する。 |
| 3 | ◆ | 水準2までの科目で学んだ知識に基づき、より高度な応用力を養う科目で構成される。各分野の専門性を深めるとともに、実社会での問題解決に活用できるスキルを養成することを目的とし、主に2年次に配置する。 |
| 4 | ● | 卒業研究や卒業制作など、これまでの学修を総合的に実践するための科目で構成される。産業界や地域社会との連携を重視し、実社会における創造的な提案を行う能力を養成することを目的とし、2年次に配置する。 |

DPを目的とした科目の開講時期



- 産1. 幅広い教養と経営情報コース、デザイン情報コースそれぞれの専門的知識を修得している。
- 産2. 地域産業の活性化やまちづくりの課題について、専門的知識に基づく思考・判断によって解決策を見出せる。
- 産3. 歴史・文化・環境などに配慮した企画やデザインを提案できる。
- 産4. 情報を収集・分析・伝達・活用するための技能を備えている。
- 産5. 修得した専門的知識と高い倫理観に基づいて、他者と協調しながら自らの能力を社会に還元する姿勢を有している。

時系列配置



科目群・カテゴリ別科目

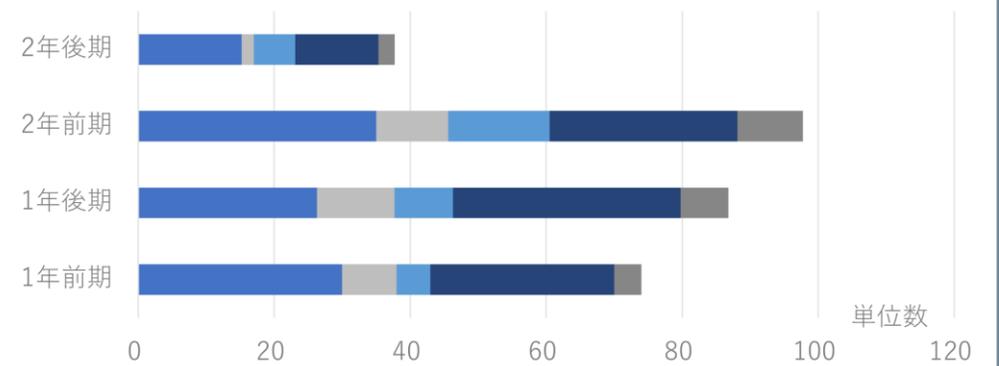
<専門教育科目の水準について>

4つに分類された専門教育科目は、順次性および分野の体系を考慮して4段階の水準に分けて配置する。

| 水準 | 記号 | 概要 |
|----|----|---|
| 1 | □ | 学生の自立的に学習する意欲を高めるための科目、ならびに産業情報に関する専門知識を学ぶための基礎となる科目で構成され、主に初年度に配置する。これにより、専門分野への関心を高め、学習への動機づけを図る。 |
| 2 | ■ | 専門分野の中核的な知識と技術を修得するための科目で構成される。基礎的な概念や理論を踏まえ、より専門的な内容へと展開させるための科目を主に1年後期から2年前期に配置する。 |
| 3 | ◆ | 水準2までの科目で学んだ知識に基づき、より高度な応用力を養う科目で構成される。各分野の専門性を深めるとともに、実社会での問題解決に活用できるスキルを養成することを目的とし、主に2年次に配置する。 |
| 4 | ● | 卒業研究や卒業制作など、これまでの学修を総合的に実践するための科目で構成される。産業界や地域社会との連携を重視し、実社会における創造的な提案を行う能力を養成することを目的とし、2年次に配置する。 |

DPを目的とした科目の開講時期

デザイン情報コース



- 産1. 幅広い教養と経営情報コース、デザイン情報コースそれぞれの専門的知識を修得している。
- 産2. 地域産業の活性化やまちづくりの課題について、専門的知識に基づく思考・判断によって解決策を見出せる。
- 産3. 歴史・文化・環境などに配慮した企画やデザインを提案できる。
- 産4. 情報を収集・分析・伝達・活用するための技能を備えている。
- 産5. 修得した専門的知識と高い倫理観に基づいて、他者と協調しながら自らの能力を社会に還元する姿勢を有している。

2

CAP制の導入検討について

CAP制の導入については、現在、教務厚生委員会及び各学科で検討を行っている。
今日までは、各学科の教務厚生担当の教員やゼミ担当の教員を中心に、各学生の履修状況について、学生の資格取得や編入等の希望に応じて個々に指導している状況に加え、以下のような履修指導を実施してきた。

産業情報学科経営情報コースでは

共通選択科目及び経営情報コース専門科目の2年次配当科目のうち、20単位以上（後期科目6単位以上を含む）を修得すること。

幼児教育・福祉学科では

年間の履修単位数は50単位以内とする（ただし、教養基礎科目・全学科共通の自由科目および各種実習・ゼミナールは除く）。

希望免許・資格の関係で上記を越える場合は審査を経て是非を決定する。

3 学修成果の可視化の検討について

直接評価と間接評価の例

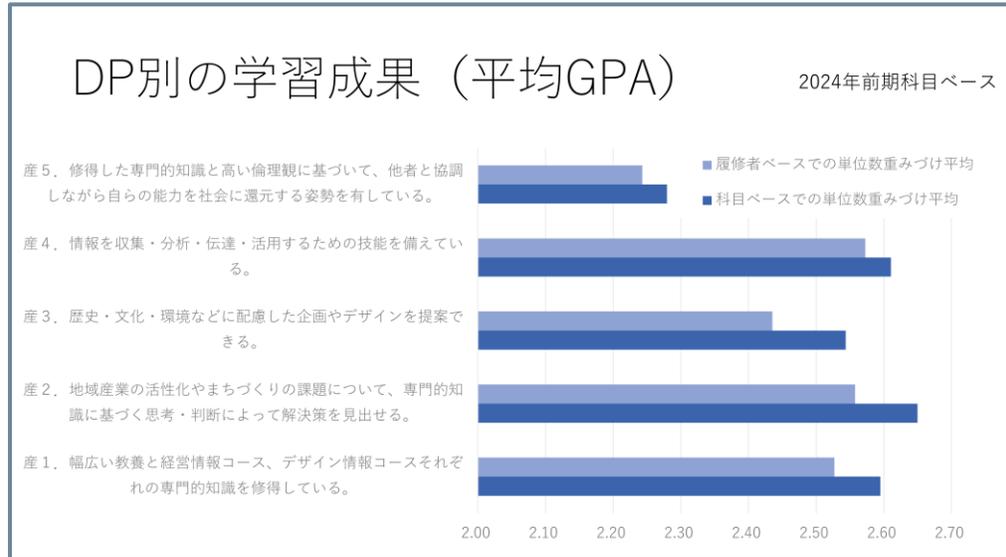
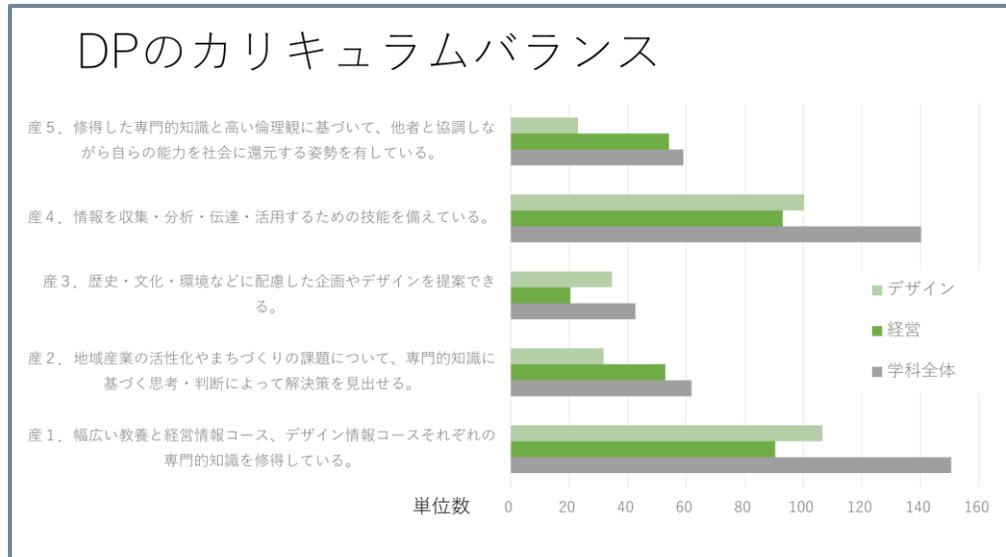
| 直接評価 | 間接評価 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業研究(論文・制作等) ○ 資格取得・受験資格取得等 ・ 外部試験等(英語検定試験等) ・ アセスメント ・ ポートフォリオ分析 ・ ルーブリック分析 等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生調査(学生アンケート等) (実態調査・満足度調査等) △ 卒業生調査 ○ 就職率 ○ 成績・GPA 等 |

現在まで、(学科によって異なるが)卒業研究を中心に学修成果、特にDPの達成度を評価したり、資格や受験資格の取得等によって学習成果の達成度をみてきた。

また、学生アンケートによる学習成果の達成状況や満足度調査を実施してきた。さらに年度毎にGPAを用いて成績分布と向上分布を可視化する等してきた(年度毎に成績優秀者と成績向上者を表彰する制度を導入する等)。

現在はGPAを活用してDPの達成度を抽出する等の検討を行ったり(右グラフ)、また今後の定性的評価を行うための可視化の検討を始めている。

GPAを活用したDP達成度の検討



3 学修成果の可視化の検討について

■ 卒業研究の事例について

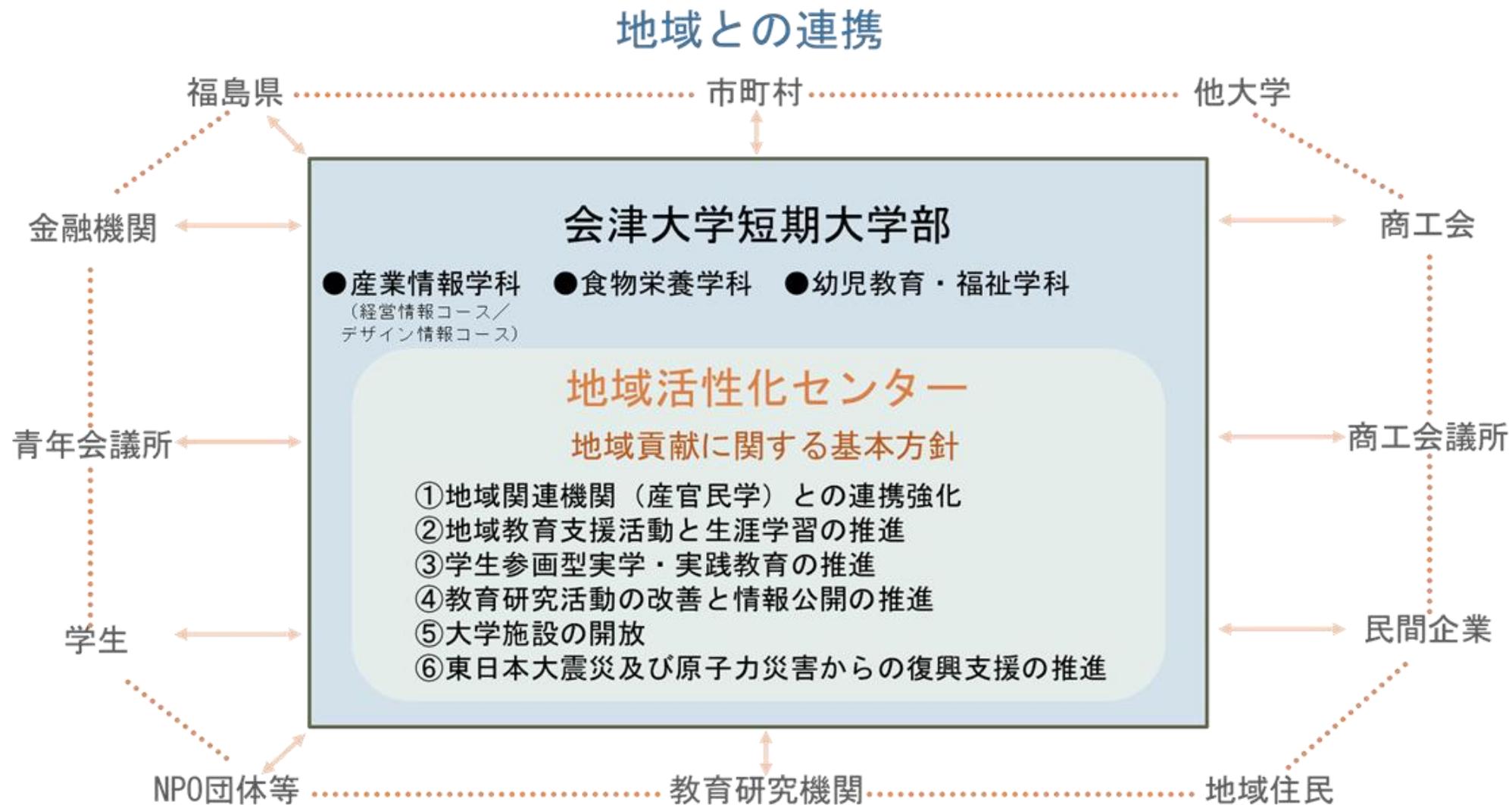
産業情報学科では、1年半をかけて卒業研究に取り組んでいる。テーマは地域での実践研究が多くを占め、中間発表会、最終発表会、卒業展(デザイン情報コース)、論文要旨集、作品集等の発行を行い成果を可視化している。卒業研究の評価は、各コースの教員全員で一人ひとりの学生の評価を行っている。



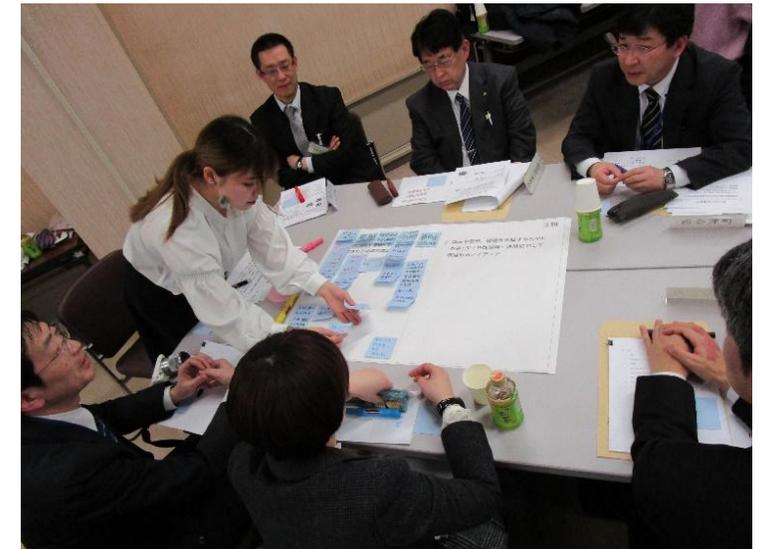
経営情報コース卒業研究発表会の様子



○TOPICS 地域活性化センターを核とする地域貢献の取組みと地域活性化センターの位置付け



地域活性化センターを核とする地域貢献の取組み 地域活性化センター運営推進会議の開催



会津管内各市町村及び関係団体等38組織の代表を構成員とした「会津大学短期大学部地域活性化センター運営推進会議」を設立。年2回運営推進会議を開催し、地域課題の共有化、協働・連携の推進を図っている。

※2020～2022年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点ため書面会議にて実施

地域活性化センターを核とする地域貢献の取組み

地域活性化センター特別講演会

会津大学短期大学部地域活性化センター特別講演会

移住 × 定住

会津地域おこし協力隊サミット
- 移住・定住に向けたそれぞれの視差 -

日時 2023年1月9日(月) 13:30 ▷ 15:30 (受付13:00)
会場 会津稽古堂多目的ホール 会津若松市栄町3-50
参加 無料

■ パネラー

- ・北塩原村地域おこし協力隊
- ・会津若松市地域おこし協力隊
- ・柳津町地域おこし協力隊
- ・元会津美里町地域おこし協力隊
- ・セイコーエブソン (IoT を活用した空き家利活用・移住促進)
- ・会津大学短期大学部地域活性化センター長

■ 皆川 健太郎

■ 馬場 啓太

■ 佐藤 美咲

■ 長谷川 竜也
■ 長谷川 祥子

■ 小保方 健志

■ 柴崎 恭秀

【主催】
公立大学法人会津大学短期大学部
地域活性化センター

【協力】
北塩原村・会津若松市・柳津町
一般社団法人 TORCH
セイコーエブソン株式会社

【問合せ先】
会津大学短期大学部地域活性化センター
〒965-8570 会津若松市一真町八幡門田 1-1
TEL 0242-23-7034 FAX 0242-37-2412
Mail chiki@jc.u-aizu.ac.jp

市の人の人の人

会津大学短期大学部地域活性化センター特別講演会

移住 × 定住 × ハケン

会津特定地域づくり
事業協同組合サミット

■ パネラー (敬称略)

- ・会津美里町地域づくり事業協同組合
- ・奥会津かねやま福業協同組合
- ・奥会津地域づくり協同組合
- ・協同組合 Joyfulワーク喜多方
- ・会津大学短期大学部地域活性化センター長

■ 高梨 宣浩

■ 星 賢孝

■ 緒勝 祐太郎

■ 清水 秋

■ 武藤 忍

■ 柴崎 恭秀

日時 2024年2月4日(日) 14:00 ▷ 16:00 (受付13:30)
会場 会津稽古堂多目的ホール 会津若松市栄町3-50
参加 無料

【問合せ先】
会津大学短期大学部地域活性化センター
〒965-8570 会津若松市一真町八幡門田 1-1
TEL 0242-23-7034 FAX 0242-37-2412
Mail chiki@jc.u-aizu.ac.jp

【主催】
公立大学法人会津大学短期大学部地域活性化センター



地域活性化センターを核とする地域貢献
産官民学連携した地域課題解決に向けた取組み

【学生参画型実学・実践教育】

AiCT × EPSON × 会津大学短期大学部 × オフィスデザインプロジェクト



地域活性化センターを核 とした学生参画型実学・ 実践教育

会津大学短期大学の授業でセイコーエプソンオフィスの空間をデザイン

エプソンと一緒に社会課題解決に取り組んでみませんか？

Contact ↓

会津大学短期大学部との共創プロジェクト エプソンの成長をイメージしたオフィスデザインをカタチに。

✔ こちらの記事の概要

- 福島県会津若松市「スマートシティAiCT」を拠点とした協働と地域貢献
- 会津大学短期大学の授業で自社オフィスの空間をデザイン

セイコーエプソン株式会社は、2020年7月に「スマートシティAiCT」に「DXイノベーションラボ会津」を開設。そのオフィスの空間デザインを創造するプロジェクトを、会津大学短期大学の産業情報科学学生の皆さんと一緒に実施しました。今回は、プロジェクトに携わった会津大学短期大学の柴崎恭秀先生、長沖充先生、学生メンバーにお集まりいただき、座談会を開催しました。プロジェクト発足の経緯から空間デザインに込めた想いや期待などを伺いました。



2021.11.29

地方創生

エプソンの成長をイメージしたオフィス
デザインをカタチに。









特集
02



GOOD DESIGN

産業復興を支えた グッドデザイン



木製玩具ファーヴァ



株式会社マストロ・ジェッペット
(福島県)

 GOOD DESIGN AWARD 2012

猪苗代浅井邸蔵再生プロジェクト

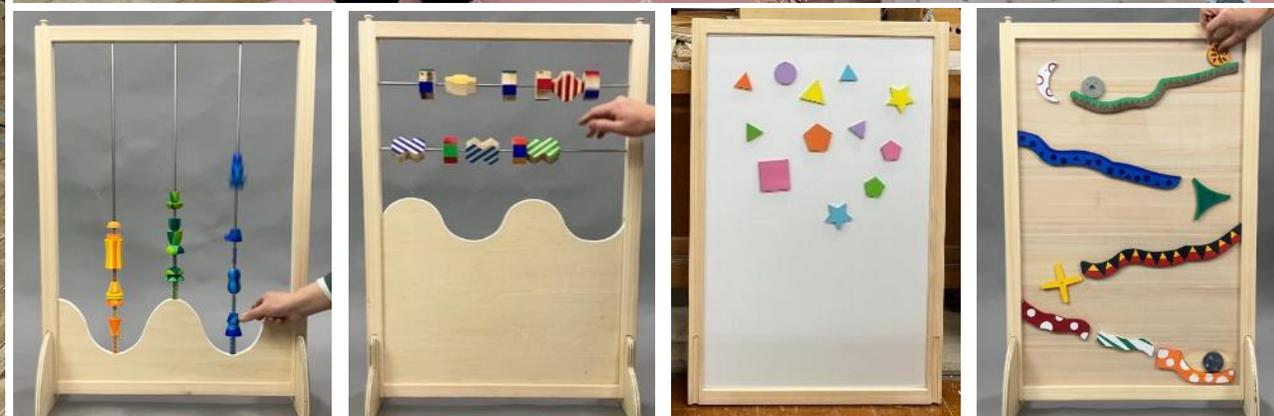


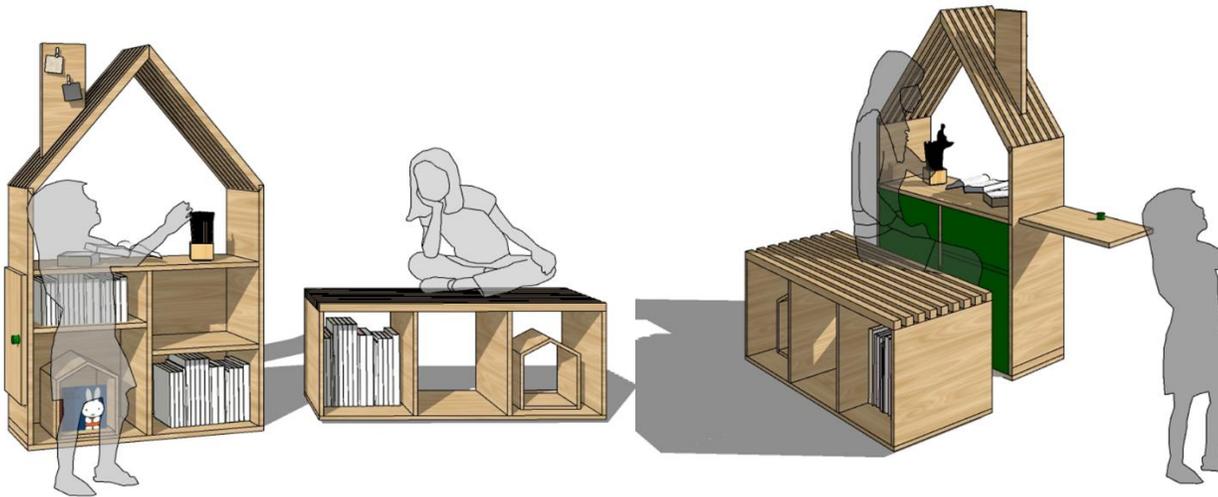
[写真:有限会社栗原写真事務所 栗原宏光]
公立大学法人会津大学短期大学部
(福島県)

 GOOD DESIGN AWARD 2014  GOOD DESIGN AWARD 2014
BEST 100

SPECIAL AWARD FROM THE CHAIRMAN OF JDP | 復興デザイン賞

子育て支援スペースで使用する
木製玩具のデザイン制作





地域拠点型薬局に併設された図書スペースの活用提案

金山町宮崎地区大悲堂天井画プロジェクト

みんなで創る学修環境



県産杉間伐材や2020東京オリンピックビレッジプラザ建築木材の提供を受け、学生の卒業研究としてエントランス床・製作家具を制作